

歴史の風

ふくおか文化財だより

Vol.43

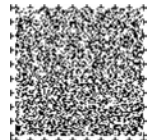
2025年3月号



潮見櫓（北から）

特集

100年の時を越えて
在りし日の姿へ 潮見櫓の復元



音声コードのご利用には、Uni-Voice
アプリのダウンロードが必要です。

100年の時を越えて在りし日の姿へ

潮見櫓 の復元

かつて47以上の櫓があったと伝えられている福岡城。その1つである潮見櫓が約2年間の復元工事を経て完成しました。江戸時代の部材や、明治時代の移築時の図面をもとに、日本の伝統的な建築技法を使って復元した潮見櫓の姿をぜひ一度現地でご覧ください。

潮見櫓は、福岡城三ノ丸（現在の舞鶴公園三ノ丸広場）北西隅に建っていました。江戸時代、櫓の西には海に面する大きな堀（現在の大濠公園）があり、海上の監視を行うための櫓として、潮見櫓と命名されたとも伝えられています。今でも、潮見櫓からは周囲を見渡すことができ、当時は城下町の向こうに海が見えたことでしょう。

福岡城の櫓は、江戸時代から残っている南丸多聞櫓のように、建物外壁の上半分を漆喰で白く塗り、下半分に黒色の下見板を貼る点が特徴です。潮見櫓もこの形に沿って復元しています。

潮見櫓の見どころを3つご紹介します。

1. 屋根

南側の屋根には、主に江戸時代の瓦を使用しているため、表面が少し荒れていて歴史を感じる風合いがあります。軒先の丸瓦には、黒田家の家紋の藤巴が彫られています。

2. 壁

日本家屋の伝統的な土壁の技法を使って復元しています。壁の芯の竹組み（小舞）の作成、荒壁塗り、中塗り、漆喰仕上げの順で何層にも塗り重ねました。漆喰で丁寧に仕上げることで、とてもなめらかで光沢のあ

もっと知りたい！



【公式】国史跡 福岡城・鴻臚館のWEBサイトでは、福岡城の歴史や見どころだけでなく、四季の花々など散策を楽しむための情報を紹介しています。ぜひ一度、右側の二次元コードからアクセスしてご覧ください。



江戸時代の絵図に描かれた潮見櫓

る美しい壁が完成しました。

3. 柱・梁

二階の小屋裏の部分には、江戸時代の部材が多く残っています。部材に刻まれた工具の痕は、当時の職人の技を物語っています。また、仕口の痕などを手掛かりに、部材が使われた場所を特定しました。

潮見櫓は、明治時代に崇福寺に移築され、仏殿として使用されてきました。一階の柱や梁はほとんど失われていましたが、今後何百年も建物を支え続けられるよう、上質の国産材を使用して復元しました。

潮見櫓必見ポイント

1



屋根

南側（公園側）の瓦は、江戸時代から残された瓦を主に使用。軒先の丸瓦には黒田家の家紋・藤巴も。

2



壁

ほぼ1年かけて壁土を作り、さらに半年かけて何層にも塗り重ねて仕上げた。鏡のように光沢を放つ特別な漆喰仕上げは必見。

3



柱・梁

新しい木材を使用した部分は、あえて色を塗らず、江戸時代の木材を使用した部分との違いがわかるようになっている。

ガイドと一緒に福岡城を歩いてみよう！



福岡城内では、潮見櫓も見学できる福岡市観光案内ボランティアによる無料定時ツアーを今年の「さくらまつり」から実施します（土日祝日のみ）。車いすをご利用の方は事前予約を。

問い合わせ：福岡市観光案内ボランティア事務局（福岡観光コンベンションビューロー内）（電話：092-733-5050（平日9時半～17時））まで。

「福岡みんなの城基金」へご協力ください！

福岡市では、福岡城の歴史的建造物（櫓・門等）の復元整備を主な目的とした寄附金を募集しています。

寄附金は「ふるさと納税」として扱われ、住民税や所得税の控除が受けられるほか、市外居住者には金額に応じて福岡の返礼品を進呈しています。



【問い合わせ先】 史跡整備活用課（TEL 092-711-4784 FAX 092-733-5537）

表紙の写真 潮見櫓（北から）

福岡城が実際に戦火に巻き込まれたことはありませんが、櫓は戦いに備えて作られた建物です。潮見櫓の中に入ったら、まず戦のための建物という雰囲気を感じてみてください。そして窓の外を見ながら、当時は見渡すことができた海から攻めてくる敵に自分ならどう備えるか、そんな思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部
〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 / TEL : 092-711-4666
福岡市の文化財HP : <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



福岡市の文化財



fukuoka_bunkazai



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS